

エコアクション21

環境活動レポート 2015

TECHNICAL **LINKS DESIGN**

株式会社テクニカルリンクスデザイン

レポート対象期間 2015年 4月1日～ 2016年 3月31日
レポート発効日 2016年 7月 15日

目次

- 1、 表紙
- 2、 目次
- 3、 会社概要、活動規模
- 4、 実施体制、認証・登録範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 5、 基本理念、環境方針
- 6、 環境目標
- 7、 環境活動の取組内容
- 8、 環境活動報告
- 9、 環境目標の実績
- 10、 環境活動計画の取組結果とその評価
- 11、 環境活動の次年度の取組内容
- 12、 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
- 13、 代表者による全体評価と見直しの結果

会社概要

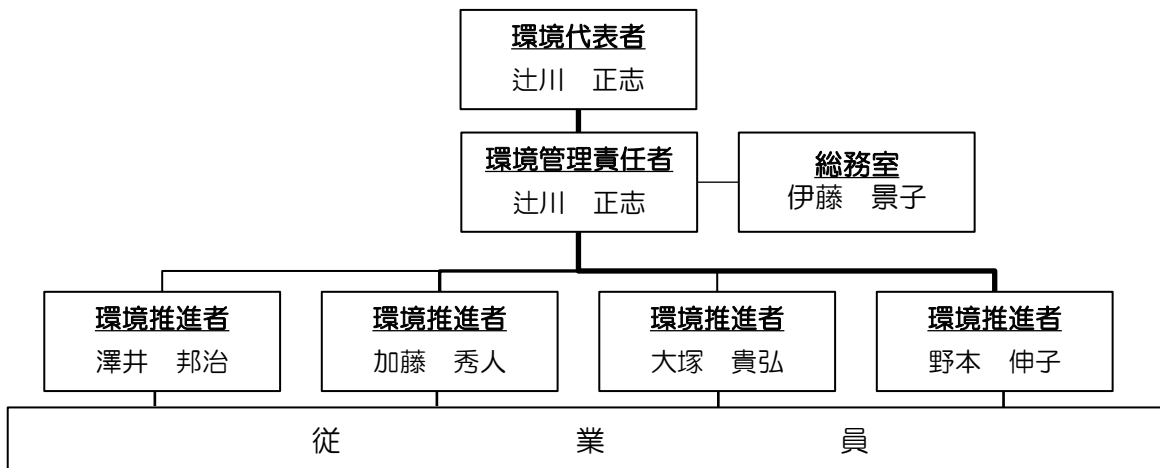
事業所名	株式会社テクニカルリンクスデザイン		
事業の活動内容	自動車用品のプロダクトデザイン・ビジュアルデザインなどの企画		
創立	1997年10月22日		
資本金	1500万円		
代表者名	代表取締役社長 辻川 正志 tsuikawa@links-d.com		
所在地	〒470-0128 StudioC(登記上本社) : 日進市浅田平子1丁目206番地 StudioB(本社機能) : 日進市浅田平子1丁目225番地		
連絡先	TEL	: 052-808-0041	
	FAX	: 052-808-0241	
事務局	総務室	伊藤 景子 ito@links-d.co.jp	
連絡先	TEL	: 052-808-0041	
	FAX	: 052-808-0241	

活動規模

事業年度	年度	4月 ~ 3月 期間		
期間	直近3期	2013年度	2014年度	2015年度
売上高	百万円	678	499	793
従業員数	人	29	29	28
床面積	m ²	901	901	901

(従業員：契約社員含む)

実施体制



事務局	代表者 辻川 正志	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の策定、各種目標・計画の承認 環境管理責任者の任命 資金の準備（人・設備・費用） 各種文書類の承認 環境活動レポートの承認 全体の評価と見直し
	環境管理責任者 辻川 正志	<ul style="list-style-type: none"> EA21システムを構築・運用・維持し管理すること その状況及び結果を代表者へ報告すること 環境への負荷の自己チェック 環境への取組の自己チェック 環境活動の目標及び計画の策定、管理 関連法規等の遵守状況管理 教育、訓練計画の策定 環境活動関連の記録の保管 環境活動レポートの作成
	環境推進者 澤井 邦治 加藤 秀人 大塚 貴弘 野本 伸子	<ul style="list-style-type: none"> 教育、訓練の実施 環境活動のグループ取りまとめ 日常的な環境活動の推進と徹底

認証・登録範囲、レポートの対象期間及び発行日

取組の対象組織	studioC(登記上本社)、studioB(本社機能)
対象組織の活動内容	自動車用品のプロダクトデザイン・ビジュアルデザインなどの企画
レポート対象期間	2015年4月 ～ 2016年3月
レポート発行日	2016年 7月 15日

基本理念

当社は、デザイン事業の活動を通じ社会に役立つ製品開発を幅広く行う。
その活動において、環境に影響する業務があることを認識し、
環境経営システムを構築・運用・改善・継続することにより
地球環境に優しい企業経営を自主的積極的に推進します。

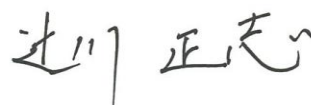
環境方針

1. 当社に、適用される法規制、当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
2. 環境経営システムを運用するにあたり、具体的に下記の取組みを展開します。
 - ①省エネルギーに取組CO2排出量を削減する
 - ②事業活動で発生する廃棄物排出量の削減・リサイクルを推進する
 - ③節水につとめ水使用量を削減する
 - ④化学物質使用量を削減する
 - ⑤グリーン購入を促進する
 - ⑥生産活動において効率化を促進する
 - ⑦デザインの事業活動を通じ、環境にやさしい製品を提案する
 - ⑧環境意識の高い社員を育成する
3. 本方針は全社員に周知するとともに一般に公開し、
環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 2009年10月1日
改定日 2012年 7月1日
継続確認日 2016年 7月8日

株式会社テクニカルリンクスデザイン

代表取締役社長



環境目標

2015年度 環境目標

		基準値		目標		目標		目標	
		2013年度		2015年		2016年		2017年	
		2013/4月~3月		2015/4月~2016/3月		2016/4月~2017/3月		2017/4月~2018/3月	
売上高(百万円)		678							
①CO2 総排出量削減		使用量	原単位	増減目標	原単位	増減目標	原単位	増減目標	原単位
電気使用量	電気使用量(kwh)	162,902	240	-4%	231	-6%	226	-8%	221
LPガス	ガス使用量(kg) ※1.	22.7	-	現状維持	-	現状維持	-	現状維持	-
ガソリン	ガソリン使用量(ℓ)	4,818	7.1	-4%	6.8	-6%	6.7	-8%	6.5
CO2	総排出量(kg-CO2) ※2.	85,375	126	-4%	121	-6%	118	-8%	116
②廃棄物削減	排出量(kg)	42,786	63	-4%	60	-6%	59	-8%	58
③水使用量削減	水使用量(m3)	294.5	0.43	-4%	0.42	-6%	0.41	-8%	0.40
④化学物質使用量削減	有機溶剤使用量(mℓ)	90,984	134	-4%	129	-6%	126	-8%	123
⑤グリーン購入促進	グリーン購入品目の比率 ※3	39.5%		4%増		6%増		8%増	
⑥生産活動における効率化	材料の在庫管理回数	12回		12回		12回		12回	
⑦環境にやさしい製品の提案	提案件数	2件		2件		2件		2件	
⑧社員の育成	社会貢献活動	2回		2回		2回		2回	

※1.LPガス換算係数・・・消費量m³を「1 m³=2.07kg」として換算している

※2.CO2換算係数・・・平成20年中部電力公表値 0.455 kg-CO2/kwh

※3.グリーン購入促進・・・目標基準をグリーン購入商品の購入点数から全購入品に対してのグリーン購入商品の比率に変更した

環境活動の取組内容

【15年度 環境活動計画】	● : 重点項目
①CO2排出量削減 【電気使用量】	<ul style="list-style-type: none"> ●「最終退出者のチェックリスト」運用による消し忘れ防止 ・ 昼休み・外出時・退勤時の消灯 ・ 共有部分の電源はこまめにスイッチをOFF ・ 照明エリア図の掲示の継続 ・ 「節電」の誓いを掲示 ・ 各個人のPの退社時、電源OFFの表示継続 ・ エアコンの設定温度の目安を啓発表示の継続 ・ 事業所（Cスタジオ）の南側の緑のカーテン継続設置 ・ エアコン温度設定操作部の付近に空調管理用温度計の設置の継続 ・ 蛍光灯の取り換え時、LEDへ移行 ・ 省エネ家電の導入 ・ 室内機フィルターの定期的清掃実施（年2回/6月12月）
【LPガス】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給湯器使用ルールの作成 ・ 給湯器付近に節約の表示
【ガソリン】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行距離記録によるエコドライブ啓発 ・ 業務の前段取りを行い無駄な引取り、納入を低減する ・ 仕入先に対し当社への納入を依頼
②廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業廃棄物で捨てていたものの中からリサイクルできるゴミを分別する ・ マンスリーレポートにより月廃棄量を把握する ・ 発砲スチロールの廃材を納品業者に回収してもらい、リサイクルする ・ パッドは、回収業者に持ち込みリサイクルする ・ 梱包材の削減、できる限り再利用するようにする ・ 詰め替え可能な製品の利用を促進する ・ 使用済み用紙の裏紙、使用済み封筒を再利用する ・ 廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理の把握する ・ 支給部品の返却を徹底する
③水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ StudioBに雨水タンクを設置する ・ 「水を大切に！」のメッセージを全ての水周りに掲示する
④化学物質の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物貯蔵の見える化ボードの設置 ・ 化学物質の有機溶剤の成分・量・対応する法令を把握する ・ 化学物質使用量を削減するため、在庫管理を行う。 ・ 相手先から支給品塗料は、全て返却する
⑤「グリーン購入」の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーン購入品目の利用を促進する
⑥生産活動における効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2S活動の推進 ・ 作業者が材取り、歩留まりを計画し材料を低減できるように意識する。 ・ 材料の低減のため、1ヶ月に1度の在庫管理を行う。
⑦環境にやさしい製品の提案	<ul style="list-style-type: none"> ●水性塗料の使用を推進する ・ 軽量化、材料置換のアイデアを提案する
⑧環境意識の高い社員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●エコキャップ、ベルマーク、使用済トナーの回収活動 ・ 環境ボランティア活動への参加 ・ 地域に対して清掃の自主活動を実施

環境活動報告

■（新）事業所内の照明を全てLEDへ移行



■環境活動の啓発表示

(新) 施錠・節電・水モレのチェックリスト 誓いの掲示

環境活動使用量の可視化

施錠・節電 チェックリスト

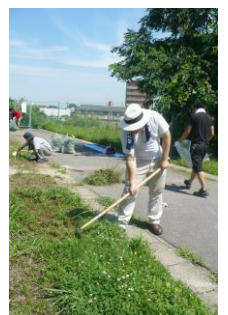
チェック項目	2018年7月																															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
施錠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
節電	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水モレ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※ 施錠・節電・水モレのチェックは、毎日必ず実施してください。チェックが完了したら、必ず「○」を記入してください。



■事業所周辺の環境美化活動

公園愛護会活動 12回/年



■エコキャップ回収活動

■使用済みトナーの回収活動



環境目標の実績

2015年度 環境目標の実績		基準値 (2013年度)		実績 (2015年度)		目標値	結果 【評価基準】 目標達成：○ 目標未達：×	
	売上高(百万円)	678		793		原単位比較	原単位増減割合	評価
①CO2 総排出量削減		使用量	原単位	使用量	原単位			
電気使用量	電気使用量(kwh)	162,902	240	161,625	204	-4%	-15% 減	○
LPガス	ガス使用量(kg) ※1.	22.7	-	13.6	-	現状維持	-40% 減	○
ガソリン	ガソリン使用量(ℓ)	4,818	7.1	4,579	5.8	-4%	-19% 減	○
CO2	総排出量(kg-CO2) ※2.	85,375	126	84,211	106	-4%	-16% 減	○
②廃棄物削減	排出量(kg)	42,786	63	27,675	35	-4%	-45% 減	○
③水使用量削減	水使用量(m3)	294.5	0.4	235.0	0.3	-4%	-32% 減	○
④化学物質使用量削減	有機溶剤使用量(mℓ)	90,984	134	70,187	89	-4%	-34% 減	○
⑤グリーン購入促進	グリーン購入品目の比率	39.5%		40.1%		4%増	0.6%増	×
⑥生産活動における 効率化	材料の在庫管理回数	12回		12回		12回	100%	○
	期末在庫量の比較(千円)	1,773		1,462		-	-311	
⑦環境にやさしい製品の 提案	提案件数	2件		2件		-	100%	○
⑧社員の育成	社会貢献活動	2回		12回		2回	10回増	○

※1.LPガス換算係数・・・消費量m³を「1 m³=2.07kg」として換算している

※2.CO2換算係数・・・平成20年中部電力公表値 0.455 kg-CO2/kwh

環境活動計画の取組結果とその評価

【15年度活動計画の取組結果】	評価	未達要因
①CO2排出量削減 【電気】 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>(新規) 施錠・節電チェックリストの実施</u> ・ <u>(新規) 事業所内全部の照明器具をLEDへ取り替え</u> ・ <u>(新規) 通路の照明に人感センサーを設置し自動消灯化</u> ・ 省エネ家電の導入（冷蔵庫の買い替え） 	○	
【LPガス】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ガス使用ルールの確認 	○	
【ガソリン】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 走行距離の計測 ・ 納品の効率化 	○	
②廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクルごみの分別・・ペットボトルを部品小分けに再利用 ・ ごみを減らす工夫・・・排出量の計測、ごみ袋のカウント ・ 廃棄物マネージメント・・・マニフェストの適正管理 	○	
③水使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 節水への啓発表示 ・ 雨水タンクのメンテナンス 	○	
④化学物質の使用量削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物貯蔵の見える化ボードの設置 ・ 化学物質使用量の測定 	○	
⑤グリーン購入の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通販を利用しグリーン購入を促進する 	×	・ 新しい通販業者を利用 (コスト面優先)
⑥生産活動におけるの効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在庫管理による適正管理 ・ 期末在庫量の削減 ・ <u>(新規) 型材料の変更による加工時間の短縮と軽量化 3件</u> ・ 梱包材の再利用 	○	
⑦環境にやさしい製品の提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2件のプロジェクトで水性塗料を使用 	○	
⑧環境意識の高い社員の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境美化活動の実施 1回/年 ・ 公園愛護会活動の実施 12回/年 ・ 衣料回収ボランティアへの参加 1回/年 	○	

環境活動の次年度の取組内容

【16年度 環境活動計画】	●：重点項目
①CO2排出量削減 【電気使用量】	<ul style="list-style-type: none"> ・「施設・節電チェックリスト」の運用管理 ・昼休みの各室の最終退席者は消灯を確認する ・共有部分の最終使用者は消灯を確認する ・照明エリア図の掲示の継続 ・各個人のPCの退社時、電源OFFの表示継続 ・エアコンの設定温度の目安を啓発表示の継続 ・事業所（Cスタジオ）の南側の緑のカーテン継続設置 ・エアコン温度設定操作部の付近に空調管理用温度計の設置の継続 ・省エネ家電の導入（家電の買い替え時） ・室内機フィルターの定期的清掃実施（年2回/6月12月）
【LPガス】	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯器使用ルールの作成 ・給湯器付近に節約の表示
【ガソリン】	<ul style="list-style-type: none"> ・燃費計測によるエコドライブ推進活動 ・業務の前段取りを行い無駄な引取り、納入を低減する ・仕入先に対し当社への納入を依頼
②廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物で捨てていたものの中からリサイクルできるゴミを分別する ・発砲スチロールの廃材を納品業者に回収してもらい、リサイクルする ・パッドは、回収業者に持ち込みリサイクルする ・梱包材の削減、できる限り再利用するようにする ・詰め替え可能な製品の利用を促進する ・使用済み用紙の裏紙、使用済み封筒を再利用する ・廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を確認する ・支給部品の返却を徹底する
③水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ●StudioBに雨水タンクを設置する（花壇の水やり、災害時用） ・「水を大切に！」のメッセージを全ての水周りに掲示する
④化学物質の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境測定」の実施 2回/年 ●「有機溶剤作業主任者」資格の取得 2名/年 ・危険物貯蔵の見える化ボードの設置 ・化学物質の有機溶剤の成分・量・対応する法令を把握する ・化学物質使用量を削減するため、在庫管理を行う。 ・相手先から支給品塗料は、全て返却する
⑤「グリーン購入」の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入品目の利用を促進する
⑥生産活動における効率化	<ul style="list-style-type: none"> ●作業効率化についての改善提案の推進 目標：2件/年 ・作業者が材取り、歩留まりを計画し材料を低減できるように意識する。 ・材料の低減のため、1ヶ月に1度の在庫管理を行う。
⑦環境にやさしい製品の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・水性塗料の使用を推進する ・軽量化、材料置換のアイデアを提案する
⑧環境意識の高い社員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ、ベルマーク、使用済トナーの回収活動 ・公園愛護会活動 ・環境ボランティア活動への参加 ・地域清掃の自主活動を実施

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・ 遵守確認の結果、関係当局よりの違反等の指摘や利害関係者からの訴訟等は過去5年間一切ありません。

【法の名称/遵守手順】	当社の遵守・管理項目	遵守確認と遵守状況
1.廃棄物処理法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物収集・運搬・処理業者との委託契約 ・ 保管場所の確保と掲示板の掲示 ・ 廃棄物の飛散・流出・地下浸透しない ・ マニフェストの発行及び管理 <ul style="list-style-type: none"> A票の保管 B 2票・D票は90日以内返却 E票は180日以内返却 不適切な処置は県知事に報告 A,B2,D,E各票は5年間保管 ・ 現地確認の実施 	委託契約書・県知事許可証の写しの入手と保管 委託処理業者の処理状況の確認をする 掲示板の掲示の確認 (60cm角以上) 表示内容は廃掃法による 飛散・流失・地下浸透の確認をする 廃棄物毎、処分事業所毎に発行の確認 A票の保管の確認をする B 2票・D票は90日以内返却確認をする E票は180日以内返却確認をする 不適切な処置は県知事に報告する A,B2,D,E各票は5年間保管確認 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	【遵守】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託契約書の締結の遵守 ・ マニフェストの保管、管理の遵守 ・ マニフェストの交付 ・ 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 <ul style="list-style-type: none"> H22年分・・・2011/6/28報告書提出 H23年分・・・2012/6/12報告書提出 H24年分・・・2013/6/7報告書提出 H25年分・・・2014/6/10報告書提出 H26年分・・・2015/4/24報告書提出 H27年分・・・2016/4/25報告書提出
2.アイドリングストップの義務(第77・78条) 自動車運転する者は、自動車を駐停車するとき、原動機を停止(アイドリング・ストップ)しなければならない。	従業員へアイドリングストップの推進をする。	【遵守】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場への啓発表示
3.自動車NOx・PM法 貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制 規制適合車使用が努力義務 規制適合車へのステッカー貼り付け	適合車には国より交付されるステッカーの貼り付けが必要	【遵守】
4.家電リサイクル法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引取業者への適正な引渡し <ul style="list-style-type: none"> リサイクル料金の支払い 家電リサイクル券の写し受領 排出者向け引取り確認(ホームページ) 「廃冷媒の発生」は家電リサイクル法に準じて管理・処理する 	購入店への引渡しをする 公表された、収集運搬料・リサイクル料金の支払をする 家電リサイクル券の写し受領の確認をする 家電メーカーへの引渡しの確認をする	【遵守】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型冷蔵庫の処分にて家電リサイクル料の支払い及び家電リサイクル券の受領を確認(2016年1月)
5.自動車リサイクル法 (使用済み自動車) 引き取り業者への適正な引渡し リサイクル料金の支払い(リサイクル券) 引き取り業者より引取証明書の受領	メーカーが定める3品目料金の預託証確認 引取り証明書の受領の確認をする 登録された引き取り業者への引渡し確認	【当活動期間において事例無し】
6.フロン排出抑制法 <ul style="list-style-type: none"> ・ フロン類(業務用エアコン・冷凍冷蔵機器)の適切な管理 	機器の適切な場所への設置 全ての機器の簡易点検又は一定規模以上の機器は定期点検の実施 フロン類の漏えい防止措置 機器の点検・整備の履歴から廃棄までの記録を保存する フロン類算定漏えい量の算定・報告 機器の廃棄時などのフロン類回収の徹底	【遵守】
7.有機溶剤中毒予防規則 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用する有機溶剤等の危険有害性の確認 	特殊健康診断の実施(2回/年) 作業環境測定(2回/年) 局所排気装置の点検・管理 有機溶剤作業主任者の選任	【遵守】
参考法令		
7.消防法 危険物取扱い…第1石油類40リットル未満	塗料の保管量の把握 塗料の安全管理	【遵守】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塗料管理ラベルの添付 ・ 塗料の施錠管理
8.小型家電リサイクル法 日進市条例…使用済み小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律	事業系の一般廃棄物として契約処理業者へ処分を委託する	【当活動期間において事例無し】

代表者による全体評価と見直しの結果

'15年度はお客様方（親会社含む）からの多くの業務ご用命を年間を通し頂けた事もあり業務負荷が常に高く、職場環境を取り巻く様々な物事が高水準となる予測をしておりました。

そのような中、社員一人一人が“売上”、“利益”、“業務効率化”、“作業の無駄削減”、“上手な業務推進”へと、会社全体に関わるマクロな考えから、一人一人が心がけることによって実現できるミクロな活動まで落とし込んだ形での努力が最終的には大きな成果となり、当初目標に対して大幅な過達を成しえたと感じております。

但し、この結果がどれだけの定着性をもった結果であったかは現状判断がつかないと考えます。昨年度のみの一過性の結果だったかもしれないとも思われます。

上記の考えのもと、'16年度は昨年の活動結果が定常的なものか一過性の物かを見定める良い機会と捉え、検証確認の年と考えます。

本年度の最終結果が昨年同様大きな成果をもたらすのであれば次年度以降も定常的に活動を継続し、また残念ながら思うような結果が出なかった場合は、今一度活動取り組み内容を再考し、新たな気持ちでの“チャレンジ”をすべきかと考えます。

今後も引き続き、『社員一人一人の想いが一つになる事によって、大きな成果を生み出せる。そんな会社であり続けたい。』と、考えます。

2016年7月15日

辻川 正志